

## 目次

- 1 コメント
- 3 『RoboHelp の 20 年』  
Colum McAndrew 著
- 7 『Adobe RoboHelp 9 の登場』  
Kevin A. Siegel 著

# Adobe® RoboHelp® 9 に対するお客様とパートナーの声

## コメント

「Adobe RoboHelp 9 では、Microsoft Word 2010 でもこれまでと同様に完璧なシングルソースオーサリングが可能。Word のフォーマットを DOC と DOCX から選べるオプションは本当に助かります。アドビに感謝！」

James Skaggs, Training & Development Supervisor

「Adobe RoboHelp を使用してヘルプシステムを Adobe AIR® アプリケーションとして提供すれば、エンドユーザーの知識を取り入れられますし、それを誰にでも利用してもらうことができます。また、当社の作成者や製品に関する専門家が、よりスムーズにユーザーに回答できます。これは大きな進歩です」

Jason Nichols, Information developer and trainer, Technical Communications, ReadSoft

当社の大量ドキュメント部門では、コンテンツがどんどん書き換えられていくなかで、どうすれば確実に全員が最新状態を共有できるのかという質問をクライアントから受けることがよくあります。この点、RoboHelp 9 のコラボレーションおよびレビューワークフローなら、すっかり身近になった使いやすい Adobe Acrobat® を使用しているので、大いに納得です」

John Daigle, Evergreen Online Learning, LLC

「当社では国外での売上が大幅に増加したほか、当社出版物に対する国内需要も増加しており、今後も引き続き成長を見込んでいます。Adobe Technical Communication Suite を導入し、かつてないほどスピーディに低コストで高品質な EPUB を制作・提供できるようになったことが、そのままこの結果に表れています」

Kevin Siegel, President, IconLogic

「追跡機能だけでもアップグレードした価値がありました。今では関係者が編集した内容を簡単に確認して確実に一貫性を保つことができます」

Peter Grainge, Documentation Manager, Advanced Business Solutions

「新しいリソースマネージャーは、特にマルチオーサリングを行う際には、非常に用途の広い機能です」

Rick Stone, ShowMe Solutions

「当社は会社として最新の技術開発に遅れをとることなく対応し、社内のドキュメントスペシャリストや開発者に先進のツールを用いて職務にあたってほしいと考えています。Adobe RoboHelp と Adobe AIR には、私たちが会社で働く人間として、また成長途上のエンタープライズソフトウェア企業として、成功を収めるために必要なツールが備わっています」

Karen Dular, Documentation Specialist, Custom Solutions Group, Technical Services,  
Hyland Software

「新しく Adobe RoboHelp Server 9 に搭載された夢のツール、Web Administrator は、設定も極めて簡単。フィードバック解析、様々なユーザーに向けてパブリッシュできる機能、カスタマイズされたフィードバックレポートの出力などを利用して、コンテンツを常に適切で役立つものにしておくことができます」

Colum McAndrew, Senior Technical Author

「私がこれまで Flare から RoboHelp へのプロジェクト変換ツールの使い方を紹介してきたなかで、100 人以上のユーザーと 65 社以上の企業が、以前ずっと愛用していた Adobe RoboHelp をまた使うようになりました。では、この方々はなぜ Madcap Flare をやめて Adobe RoboHelp に戻るといった選択をしたのでしょうか。それは、使いやすく簡単にプロジェクトを作成できるツールが恋しくなったからです。ユーザーはコードの扱いに慣れたテクニカルライターの方々ですが、Flare のインターフェイスについては不必要に「技術的」でわかりにくく、ライティングの妨げになると評しています。一方 RoboHelp は、アドビが Macromedia から購入して以来、4 バージョンのメジャーリリースを行うなど積極的にサポートしているので、その状況を見てきたユーザーは RoboHelp に戻るのが安全で賢明だと感じたのです。今や業界最先端の Adobe Technical Communications Suite のコンポーネントとして当然のごとく卓越した標準規格準拠機能を備え、画期的な方法で生産性を向上させている RoboHelp の素晴らしさを、ユーザーの方々は実感しています」

John Daigle, Evergreen Online Learning, LLC

「Adobe RoboHelp を使用してヘルプシステムを Adobe AIR アプリケーションとして提供するようになって、SDK の作成方法、メンテナンス方法、そしてお客様に提供する方法が一変しました。1 つに統合されたツールを単一のインターフェイスで使えるようになったことで、開発者との作業をシームレスに行い、より有効で高品質なドキュメントを短時間でお客様に提供できるようになりました」

Karen Dular, Documentation Specialist, Custom Solutions Group, Technical Services,  
Hyland Software

「私は会社からの指示で、どのオーサリングツールが当社に最適かを短期間で調査することになりました。例によって Google では十分すぎるほどの検索結果が出てきましたが、私はそれまでにアドビ製品を使った経験があったことから、RoboHelp 9 と他製品のいくつかを比較してみることにしました。

オーサリングツールを選ぶ際に、それぞれの製品の技術的な特徴を比較検討するのは当然ですが、重要な条件でありながら見落としてしまいがちなのが、購入後のベンダーサポートです。

アドビのカスタマーケアチームは実に素晴らしく、その一例を挙げると、単なる見込み客にでも顧客と遜色ないレベルのサービスとサポートを提供してくれるのです。迅速な対応、優れた製品知識、そして可能な限りあらゆる手を尽くしてサポートしようという溢れる熱意に、私は評価する立場の者として感銘を受けました。

地理的な場所も時差もものともせず、カスタマーケアチームは努力を惜しむことなく見込み客のために最善を尽くしてくれました。実際に顧客になれば質の高いサポートを期待できると私は確信しています。私が個人的に重要だと思う点は、サポートチームが親しみやすく前向きな態度で接してくれるということです。これは IT サポート業界では特に、非常に新鮮に感じられます。

アドビカスタマーケアチームの皆さん、どうもありがとう！」

Shéba Dey, Technical Writer  
Adept Business Systems Pty Ltd, Australia

「当社は、膨大な量のドキュメントとデータを様々なグループから集め、1 つの使いやすいドキュメントにまとめる方法を必要としていました。また、当社の多彩な API を顧客の皆様に、様々な開発言語、使いやすい形式でご利用いただきたいとも考えていました。そこで当社は、膨大で複雑なドキュメントを扱うために必要な、強力な機能と高い安定性を備えたプラットフォーム、Adobe RoboHelp を選びました」

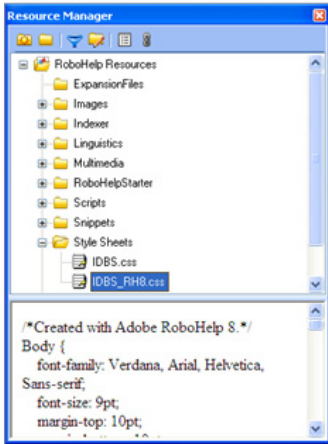
Karen Dular, Documentation Specialist, Custom Solutions Group, Technical Services,  
Hyland Software

## レビュー

以下の文章は、『RoboHelp の 20 年』Colum McAndrew 著、および『Adobe RoboHelp 9 の登場』Kevin A. Seigel 著から抜粋したものです。

### 『RoboHelp の 20 年』 Colum McAndrew 著

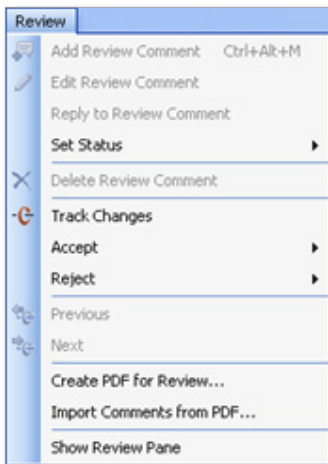
#### リソース管理



5人のテクニカルライターが3か所に分散しているチームをまとめる立場の者として、プロジェクトのリソース管理は大仕事です。私たちのチームがスタイルシートを変更すれば会社のルック&フィールが変わりますし、カスタムボタンに追加するスキンを変更する場合には、チームがメンテナンスしているヘルプシステムすべてにこの変更を適用しなくてはなりません。これまでは、チームのソース管理システムにRoboHelpのブランクプロジェクトを作成して、何とか管理してきました。しかしこの方法は、既存のプロジェクトが影響を受けない範囲に限られてしまいます。

RoboHelp 9の登場で、この問題は解決できました。ファイルタイプを共有の場所に保存したり、これとプロジェクトを動的にリンクしたりできる機能を備えているため、いとも簡単にリソース管理を行えるようになったのです。変更が必要な場合は、共有の場所でこの変更を行いさえすれば、該当する物があるプロジェクトすべてに自動的に適用されます。これはマルチオーサリングやマルチプロジェクトの環境で必携の機能です。

#### コンテンツのレビュー



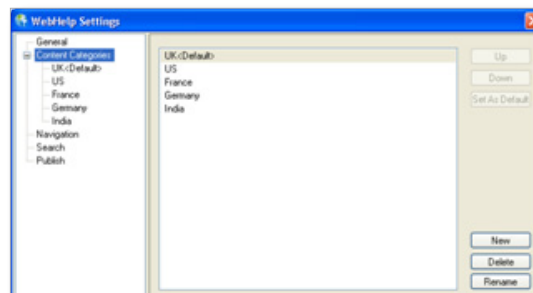
これまで RoboHelp を使用してきたユーザーなら、RoboHelp 9 をチラリと見ただけで、メニューにレビューという新しい項目があることに気付くはずですが、これはもしかして? そうなんです。プロジェクトコンテンツをレビューに出すワークフローができたのです。メニューを使って必要なコンテンツの PDF を作成するだけで、そのままのトピックを含めるかを選択し、レビューに出すことができます。この機能では Adobe Acrobat コードが RoboHelp の一部として使われており、レビュー担当者が PDF に直接コメントを追加できます。そして何より、無償の Adobe Reader® (バージョン 9 以降) を使用してレビューを行えるという点が実に優れています。

コメントの追加がすべて終わったら、作成者はレビューメニューを使ってコメントを読み込みます。すると、読み込まれたコメントの概要が作成されると同時に、コメントが該当するトピック内に表示されます。この機能で特に優れている特徴は、コメントが Microsoft Word の変更履歴機能とまったく同様に表示される点です。見慣れた網かけや色分けも、そっくりそのままです。作成者がやるべきことは、個々のコメントを受け入れるか拒否することだけです。

レビューワークフローではこの他に、Acrobat.com を利用して PDF をレビューに出せる機能があります。Acrobat.com のクラウドソリューション用アカウントを無料で作成し、共有レビューを設定することが可能です。この機能を使用すると、全員が 1 つの文書にコメントを追加して、お互いの記入内容を確認しあえるため、各分野の専門家複数でレビューを行う場合には非常に便利です。アドビのクラウドソリューションには他にもメリットがありますが、共有レビューを行う際にはレビュー担当者としてアカウントを持っている必要があります。この機能を使えるようにしておく、特に各分野の専門家の所在地が離れていたり時差がある場合には便利です。

#### 動的なユーザー重視のコンテンツ (DUCC)

この新機能を使用すると、ヘルプコンテンツのユーザーが、ニーズに応じてコンテンツにフィルターをかけられます。例えば、規定や手順に関するヘルプは、様々な国・地域を対象としたものとなっているはずですが、この場合、規定や手順はエンドユーザーの居場所によって異なってきます。何らかの理由で、すべてのユーザーを対象としたコンテンツを 1 つの RoboHelp プロジェクトに収録することになりそうな場合、どのように対処すれば良いのでしょうか?



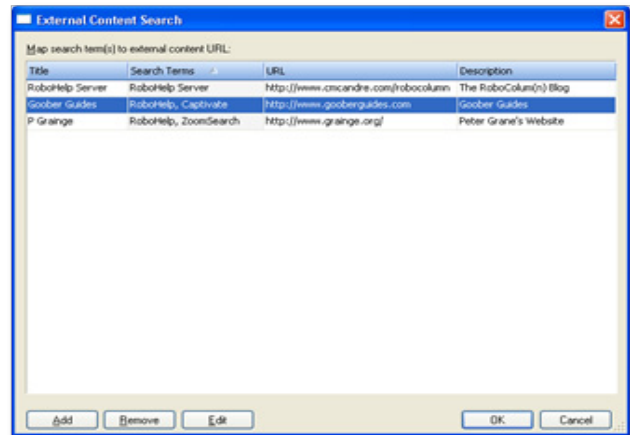
ヘルプファイルにはドロップダウンメニューがあり、そこでユーザーが値(言語、国・地域など)を選択できます。値が選択されると、それに応じたコンテンツが表示されます。すべてのコンテンツは 1 つの RoboHelp プロジェクト内で管理されているので、コンテンツにはどのカテゴリに属するかを表すタグが付けられています。DUCC は『ステロイドのコンディショナルビルドタグ』と呼ばれています。同じよう

な動きがあるので、これは上手い表現ですね。カテゴリの設定をシングルソースレイアウトのプロパティで行えば、あとは魔法のようにできてしまいます。

これがエンドユーザー側から見てどうなっているのかというと、他のアドビ製品の最新版をインストールされている方は、もうご覧になっているかもしれません。最新の全アドビ製品（RoboHelp 9 を含む）に同梱されている Adobe Community Help では、これとまったく同じ機能が使われています。例えば、RoboHelp 9 のヘルプを読み込むと、Adobe Community Help が RoboHelp 9 のヘルプ表示と共に起動します。ただし、Adobe Technical Communications Suite など他のアドビ製品がインストールされている場合、ドロップダウンメニューからその製品のヘルプファイルに切り替えることができます。こうした操作はすべて、Adobe Community Help アプリケーションを開かずに行えます。

### 外部コンテンツ検索

RoboHelp 9 の外部コンテンツ検索機能を利用すると、キーワードを入力した際に、リンクしてある特定の Web サイトの URL まで検索できます。つまり、キーワードを検索すると、ヘルプシステム内のコンテンツだけでなく、指定した外部 URL のコンテンツも検索結果として表示されるというわけです。



### ePub 出力

近ごろ市場に出回っている数多くのモバイルデバイスに気付いていない人がいるとしたら、その人はここ数年、洞窟にでも住んでいたのでしょうか。私は初期の Psion の頃からの PDA ユーザーとして、モバイル PDA と単なる携帯電話との境界線がどんどんあいまいになっていく様子を、ワクワクしながら見てきました。この境界線は、Kindle や iPad のようなデバイスが登場しても、まだ存在しないというレベルにまであいまいになったわけではありません。

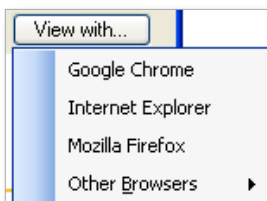
ここで問題になってくるのが、ヘルプコンテンツの表示です。このようなタイプのデバイスは、大きな画面が表示領域となるので、エンジニアなどドキュメント保存を行う分野のユーザーにとっては非常に便利です。最近どこかで読んだのですが、飛行機のパイロットがずっしりと重い航空機マニュアルを持ち歩く代わりに、このようなデバイスを希望しているのだそうです。パイロットが手にしているのをよく見かける、あの大きく重そうなカバンも、過去の遺物となるのかもしれません。

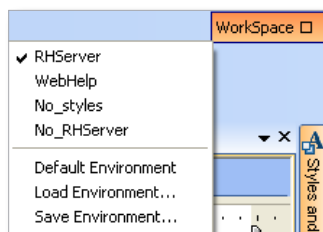
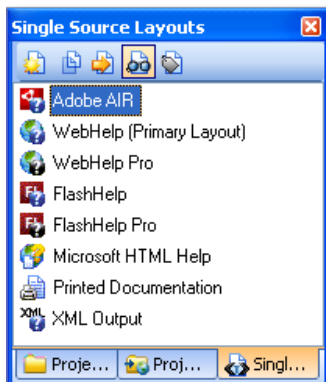
RoboHelp 9 では、ePub 出力専用デザインされた新しいメニューが初めて搭載されました。RoboHelp のシングルソースレイアウトを使っている方なら、これがどれほどすばやく簡単に使えるかご存知でしょう。ePub の場合もこれと同じで、出力が完了したら、あらゆる ePub 対応デバイスで表示することができます。ePub 形式では次のようなセットアップを行います。

- ePub リソースを Web からダウンロード
- ePub で必要な特定の形式を含むスタイルシートを別途に作成
- サポートされていない効果がプロジェクト内に存在しないことを確認 (DHTML など)

### Web 出力のレビュー

Web ベースの出力を作成する際の問題点として、エンドユーザーが使用するブラウザを制作者側がコントロールできないことがあります。ブラウザには個々のレンダリング特性があるため、意図したとおりに「機能する」出力を作成するのはなかなか困難です。以前は、該当のブラウザを起動して、実際に出力したものをテストするという方法でしか、表示状態を確認できませんでした。もし、実際に出力しなくても RoboHelp の中でトピックを様々なブラウザ内でプレビューできたら、素晴らしいと思いませんか？ RoboHelp 9 ではまさに、対応している一般的なブラウザならどれでも、これが行えるのです。





## AIR Help

Adobe AIR (Adobe Integrated Runtime) は、ブラウザの外で実行可能なリッチインターネットアプリケーションを作成できる、予備的なヘルプ形式です。そればかりか、ブラウザ内で実行した場合も、どのブラウザを使用しているかに関係なく、まったく同じように動作します。世界的に有名な数々の製品でも幅広く採用されている出力形式なので、RoboHelp 9 でも完全なサポートを期待できます。

RoboHelp 8 では未対応でしたが、RoboHelp 9 では新たなレベルで Adobe AIR の使用サポートが開始されました。簡単に言うと、テンプレートとスキンを追加すれば、出力に対して独自にルック&フィールや企業ブランディングを追加できます。さらに、以前はなかったものですが、コメントの追加と管理を行えるようになり、ある程度のインタラクションが可能になりました。

## ユーザーインターフェイス

RoboHelp の大きなセールスポイントのひとつは、親しみやすさです。バージョン 9 では、もちろんこれに変わりはありませんが、エンドユーザーが本当に便利に使えるようにするためのマイナーチェンジも加えられています。

- ・ 環境: RoboHelp 9 では「ワークスペース」と呼びます。これは恐らく、他のアドビ製品 (Adobe Captivate® など) で使用しているワークスペースに合わせてあるのでしょう。アドビは全般的に標準用語を使用するよう独自の運動を進めているようで、私個人としてはこのマイナーチェンジの実施に異存ありません。以前はファイルメニューからワークスペースを開いていましたが、これがユーザーインターフェイス右上端のドロップダウンからアクセスするよう変更されています。
- ・ 変数/スニペット: 変数とスニペットのポッドでは、コンテンツの検索、コンテンツのカテゴリ分類 (自由自在に折り畳めるようになっています)、コンテンツの並べ替えができるようになりました。
- ・ 保存して生成: 以前はシングルソースレイアウトのプロパティで変更と出力生成を同時にできなかったのですが、私はいつもそれを不満に思っていました。出力パスを変更し、同時にそのパスを次回のために保存したい場合、2つのプロセスを実行しなくてはなりませんでした。RoboHelp 9 では出力の「保存して生成」オプションが追加され、この問題が解決されています。

## これだけではありません。

RoboHelp 9 の購入・アップグレードには他にも検討事項があります。

- ・ 状況依存ヘルプ: 状況依存ヘルプ (F1) を使用すると、自動マッピングツールでアプリケーションダイアログにトピックを直接マッピングできます。
- ・ リッチ HTML のペースト: 書式設定やハイパーリンク、画像をすべて維持したまま、Microsoft Word の表やリストをコピー&ペーストしなくてはならないことはありませんか? もしあるなら、この機能を利用できます。
- ・ ご期待どおり RoboHelp 9 は Windows 7 (32-bit と 64-bit の両方) に対応しています。Microsoft Office 2010 へのバージョンアップもサポートしています。

## Adobe Technical Communication Suite

RoboHelp 9 のレビューをしておきながら、Adobe Technical Communication Suite 3 のことを語らずに終わるわけにはいきません。これはテクニカルライター向けアドビアプリケーションのスイート製品で、パワーユーザーにとって、またドキュメント内で本格的なインタラクションを提供しようと考えている方々にとっても、必携のソリューションです。この製品には Adobe RoboHelp 9、Acrobat X Pro、Adobe FrameMaker® 10 およ

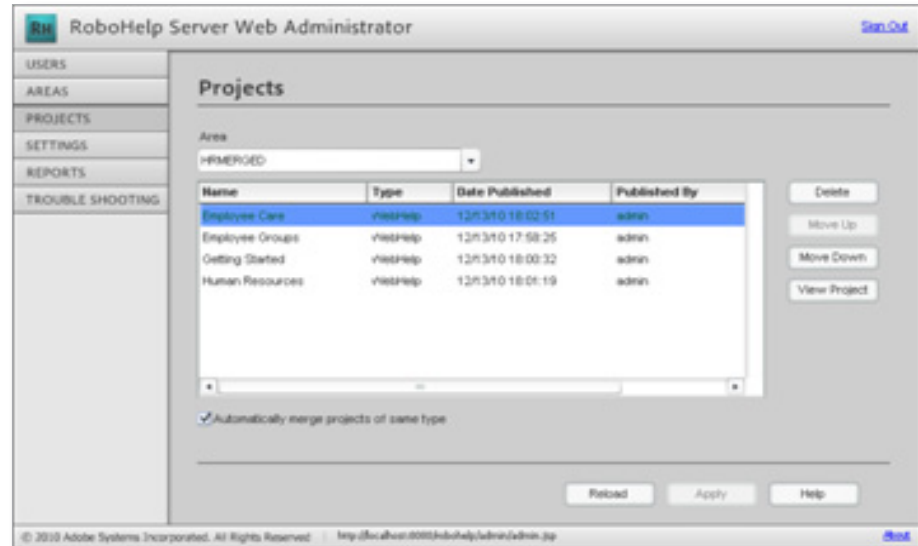


び Adobe Captivate 5 が含まれています。最新バージョンの RoboHelp だけでなく、FrameMaker と Acrobat も最新バージョンとなっていることにお気付きの方も多いことでしょう。今年の初めに私がブログで紹介した Adobe Creative Suite® 5 の様々な要素 (Adobe Bridge など) に加え、実に便利なアプリケーションのスイート製品をごくわずかな金額で手に入れることができます。前述のアプリケーションのうち 1 つだけしか持っていないくても、アップグレードオプションを利用して、このスイート製品をお得な金額で購入する方法もあります。

また、Technical Communication Suite 3 は、単に独立したテクニカルコミュニケーター用アプリケーションを集めたものではありません。アプリケーション間で緊密に連携できるようになっています。例えば、FrameMaker ユーザーにコンテンツを作成してもらった場合、それを RoboHelp プロジェクトにリンクしたり読み込んだりして、そのまま Captivate シミュレーションの作成と PDF の生成を行うことができます。この作業はすべて、他のアプリケーションを起動することなくシームレスに行えます。

### RoboHelp Server

RoboHelp Server はドキュメントのホスティングソリューションであり、コンテンツの改良に役立つフィードバック解析を収集することもできます。RoboHelp には含まれていないので別途ライセンスが必要ですが、追加購入するだけの価値は十分にあります。



RoboHelp Server 9 は、RoboHelp 9 や Technical Communication Suite 3 と同様に、大幅に改良されてレベルアップしています。ネットワーク全体での AIR Help のサポートについては既に述べましたが、これはほんの一部に過ぎません。アドビが既存ユーザーの様々な声に耳を傾け、その多くを実装していることから、RoboHelp Server 9 はテクニカルライターに最適なフィードバック解析ツールとなっています。今後の記事では恐らくさらなる改良についてご紹介できることでしょう。

### まとめ

私はこの記事の冒頭で、メジャーバージョンアップした Adobe RoboHelp 9 は大きな期待を寄せられていると述べました。これが紛れもない真実だということは、この記事でお分かりいただけたことと思います。このバージョンを出すにあたり、アドビはエンドユーザーの批評や耳の痛い話もじっくり聞いて、その多くに対処しました。RoboHelp は主要部分が大幅に改良されており、「必携」バージョンと呼ぶにふさわしいところか、そのレベルを超えた機能を実現しています。誕生から 20 年を迎える今年、4 年ぶり 4 度目のメジャーバージョンアップを行った Adobe RoboHelp は、輝かしい未来が開けていることをはっきりと証明したことになります。



Colum McAndrew 氏は、英国 Guildford を拠点に活動するシニアテクニカルライターです。Institute of Scientific and Technical Communicators (MISTC) 会員であり、1999 年からアドビのテクニカルライター向け製品のユーザーでもある同氏は、そうした製品のサポートフォーラムにも頻繁に登場して他のユーザーにアドバイスをを行っています。また、テクニカルライティングに関するブログ、RoboColum (n) (<http://www.cmcandrew.com/robocolumn/>) でも、主に Adobe RoboHelp、Adobe RoboHelp Server、他の Adobe Technical Communications Suite 製品のユーザーとしての情報を発信しています。Twitter : @robocolumn

注：記事中に登場する Adobe RoboHelp Server は日本では販売していません。

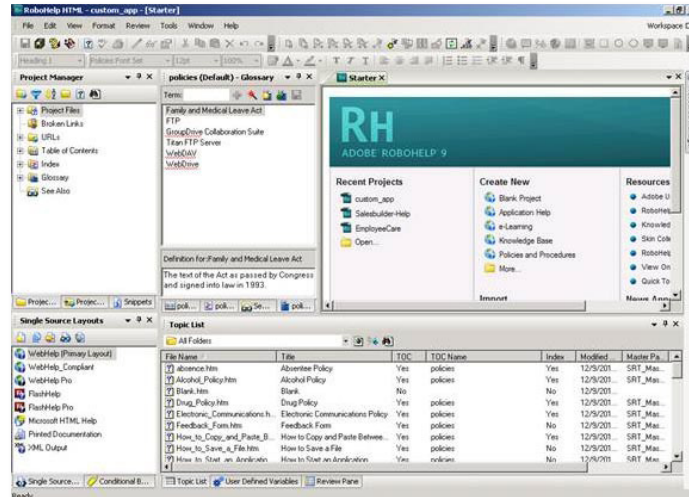
## 『Adobe RoboHelp 9 の登場』 Kevin A. Siegel 著

### 旧プロジェクトのアップグレードも楽々スムーズ

どんなプログラムでも、新バージョンはありとあらゆる素晴らしい新機能を提供してくれるものです。しかし、以前のプロジェクトを開こうとすると血圧が上がらざるをえないというのでは、その新しいプログラムを使う気にはなれません。ですから、私の手元にあった約 12 のプロジェクト（トピック数が数十個から数百個まで様々なサイズのものを）を RoboHelp 9 が開いて自動更新してくれたときには感激でした。旧プロジェクトのうち 1 つとして新しい RoboHelp 9 バージョンに更新できなかったものはありません。なんとも素晴らしい！

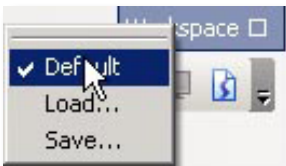
### RoboHelp 9 のインターフェイスはストレスフリー

RoboHelp 9 を起動してみると、メインのユーザーインターフェイスが RoboHelp 7 や RoboHelp 8 のものからほとんど変わっていませんでしたので嬉しくなりました。



私は習慣の生き物なので、何か変更目的で動かされたり、隠されたり、削除されたりすると、ストレスが溜まりやすいのです（そしてまた血圧が上がってしまいます）。RoboHelp 7 の登場で、ユーザーがポッドを画面上の特定の位置にドラッグし、環境を作成することによって UI のルック&フィールを保存できるようになりました。環境はいったん作成すれば簡単に呼び出すことができましたし、デ

フォルト環境を読み込んで デフォルトの UI に戻すこともできました。アドビ製品のなかで環境の機能があるのは RoboHelp だけではありません。そうです、Adobe Captivate など他のアドビ製品では、ほとんどが環境のことをワークスペースと呼んでいます。ですから、アドビが RoboHelp 9 でワークスペースという用語を使うようになったのも当然といえば当然のことでしょう。



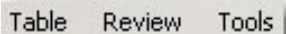
### よくある疑問

RoboHelp 9 の素晴らしい機能を詳しく説明する前に、まずは誰もがアップグレードの際に抱く「よくある疑問」についてお話することから始めましょう。例えば、RoboHelp 9 は Windows 7 で (64-bit 版でも) 非常にスムーズに動作します。また、RoboHelp 9 では Microsoft Word 2010 が完全にサポートされています（これは RoboHelp 8 を使っているヘルプ作成者の多くが心配していたようです）。

最近アドビから Adobe Technical Communication Suite 3 がリリースされました。これは、テクニカルライターには欠かせないアプリケーションのスイート製品だと私は思います。この製品には FrameMaker 10、RoboHelp 9、Adobe Captivate 5 が含まれています。驚きの体験がしたいという方は、ぜひ Adobe Captivate から FrameMaker、そして RoboHelp へのワークフローを試してみてください。これは実に素晴らしいものです。これについては、また別の記事で扱うことにして、今回は RoboHelp 9 の紹介を続けましょう。

### レビューワークフロー：RoboHelp でコラボレーション

私はどんなプログラムでも新バージョンを開くとまず、隅から隅まで確認して何か新しいものがないかを探します。RoboHelp 9 のメニューでは、すぐに新しくなっているものに気が付きました。「表」と「ツール」の間に、「レビュー」メニューが収まっていたのです。



Adobe FrameMaker で共有レビューの機能を発見して以来、私はずっと PDF レビューワークフローのファンです。FrameMaker では簡単に PDF を作成してレビューを行うことができます。レビュー担当者は無償の Adobe Reader 9（またはそれ以降）を使用して PDF に直接コメントを追加できます。このコメントは、Microsoft Word を使用して行う場合と同様に、FrameMaker でもソースドキュメントに再び読み込んで、受け入れたり拒否したりすることができます。そしてもちろん Word は必要ありません。RoboHelp 9 でこのレビューメニューを見つけたとき、私は光に集まる蛾のように、すぐに飛びつきました。そして、私の期待が裏切られることはありませんでした。

## 1つのプロジェクトで2種類のレイアウトが可能なコンテンツカテゴリ

### (別名、動的なユーザー中心のコンテンツ)

動的なユーザー中心のコンテンツ。なんだか長い名前ですね。これでは絶対に複雑極まりない新機能のように聞こえるに違いありません。これは新機能ですが、実際のところ、動的なユーザー中心のコンテンツ（コンテンツカテゴリ）は、コンディショナルビルドタグが改良されたものなのです。

要するに、コンディショナルビルドタグを使用することによって、巨大な RoboHelp プロジェクトを維持したまま、地域別にコンテンツの異なるレイアウトを無数に生成することができるのです。あるトピックが除外されたレイアウトでは、このトピックがユーザーからは見えません。さらに、見えないトピックへのリンクも、索引のキーワードや目次の項目と一緒に自動削除されるのですから、これは実に素晴らしい機能です。

もちろん、10組の条件設定があれば、恐らく10種類のレイアウトが生成されることになるでしょう。では、もし1つのレイアウトを生成して米国とカナダのユーザー両方に提供し、ユーザーに見たいコンテンツをその場で決めてもらうとしたら、どうすればよいのでしょうか？

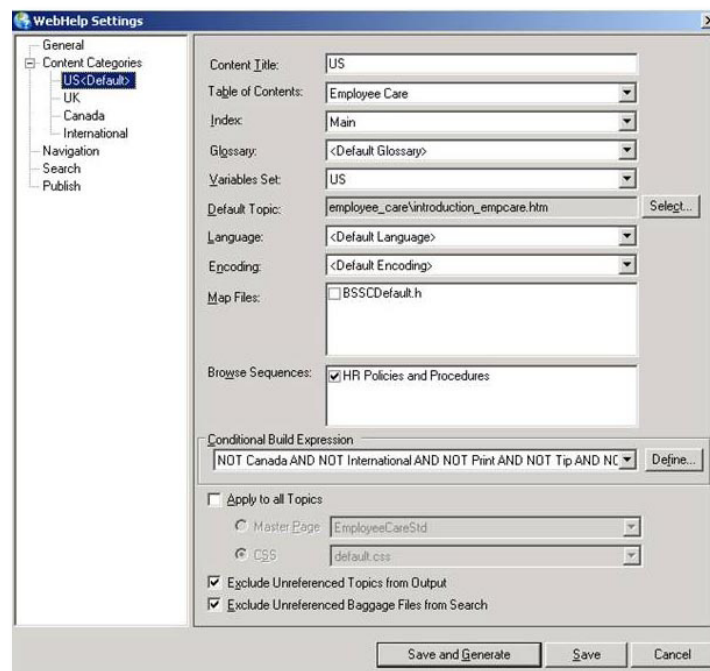
RoboHelp の動的なユーザー中心のコンテンツを開始

まずコンテンツカテゴリの使い方を説明しておきましょう。WebHelp または AIR Help のレイアウトを生成しようとしていて、コンディショナルビルドタグとビルド式は既に作成してあるとしたら、レイアウトのプロパティを表示して、コンテンツカテゴリを選択することになります。

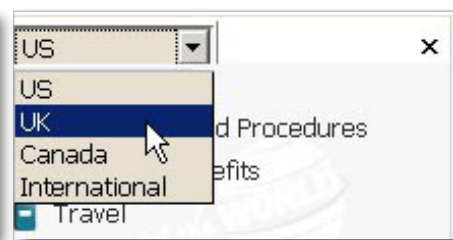


次に、ダイアログボックスの左下にある「新規」ボタンをクリックして、必要な数のカテゴリを作成します。

このカテゴリを作成したら、各カテゴリのプロパティを入力していくわけですが、ここにはユーザーがそれぞれのカテゴリを選んだ際に表示される目次、索引、用語集などを入力します。前述したとおり、各カテゴリでは適切なビルドタグ式も選択します。



さて、これらの操作を行うことで、ヘルプシステムのユーザーにとって何が変わるのでしょか？ 完成した WebHelp または AIR Help のレイアウトをユーザーが開くと、ナビゲーションバー（ヘルプシステムウィンドウの左上）にドロップダウンメニューが表示されます。このドロップダウンメニューをクリックすると、作成者が提供した数だけカテゴリが表示され、そのカテゴリを利用できます。また、コンディショナルビルドタグをいくつ使用したかによって、ユーザーが目にするコンテンツは劇的に変わります。こんな機能が何年も前からあれば、私は絶対に使っていたでしょう。



## 外部コンテンツ検索

ヘルプシステムで最もよく使用される機能は、索引と検索の2つです。検索機能では、これまで特定の URL を検索キーワードにリンクさせることができず、これが1つの制限になっていました。嬉しいことに、新しい外部コンテンツ検索機能では、この問題が解決されているのです。

The screenshots illustrate the workflow for adding external content search. It begins with a Google Advanced Search for 'webdrive south river technologies'. The search results page is then shown. An 'Add' dialog box is used to input the search details: Title (webdrive), Search Terms (webdrive), URL (ologies%22&hl=en&num=10&lr=lang\_en&it=&icr=&safe=images&tbs=), and Description (Google search term for webdrive using "South River Technologies"). A 'Search Options' dialog box is also shown, with 'Enable External Content Search' checked.

外部コンテンツ検索を使用すると、ユーザーが検索しようとするキーワードに基づいて特定の URL のコンテンツを表示することができます。例えば私の場合、まず Google の高度な検索機能を使用して、特定の用語、フレーズ、言語が載っている Web サイトをすべて検索しました。

そして検索結果の URL をクリップボードにコピーしました。RoboHelp のプロジェクト設定ポッドで新しい「外部コンテンツ検索」オプションをダブルクリックし、外部コンテンツ検索ダイアログボックスを開きました。

そして「追加」ボタンをクリックし、表示されたダイアログボックスに入力。下図を見れば分かるように、ほとんどのフィールドは何を入力すればよいか一目瞭然です。この URL フィールドに、私はクリップボードから URL をペーストしました。

このプロセスで最後のステップとして、レイアウト (私は WebHelp を生成していました) のプロパティを表示し、検索カテゴリから「外部コンテンツ検索を有効にする」を選択しました。

生成されたレイアウトは、下図のようになりました。

The screenshot shows the RoboHelp Polices & Procedures interface. The search results for 'webdrive' are displayed, including the title 'webdrive', the search term 'Google search term for webdrive using "South River Technologies"', and the rank '1'. The search options are also visible, with 'Highlight search results' checked and 'Search results per page' set to 10.

RoboHelp の外部コンテンツ検索で、特に私が Google から入手したような検索エンジンの検索結果 URL を使用してみて素晴らしいと思ったのは、Google のアルゴリズムが更新されると（これは頻繁に行われます）私のユーザーが得る検索結果も自動的に更新されるという点です。私個人としては、この機能のおかげでデベロッパーとして仕事が簡単になりますし、私のユーザーにとっても有意義なことだと思います。

## ePub 出力

私はこれまでに数え切れないほど本を書いてきました（実は 200 冊までで数えるのをやめてしまいました）。2011 年も順調に進んでおり、私は著書のなかで売れ行きの良いものをいくつか ePub 形式にして、Kindle や iPhone、iPad、そして ePub リーダーが搭載された他のデバイスで見てもらえるようにしたいと考えています。問題は、ePub 制作専門の会社に頼むと、印刷された本や PDF を ePub 形式にしてもらうのに多額の費用がかかるということです。

Generate ePub Output

ePub Output Location: C:\Documents and Settings\IconLogic\Desktop\PubOutput

Select XML output SSL: ePub XML Output

Metadata | Cover Page | 7Zip Location

Title: EmployeeCare

Author(s): Biff Bifferson

Publisher(s): IconLogic, Inc.

Tag:

Rights: 2010, SRT, All Rights Reserved.

Description:

ISBN: 123456789

Publish Date: 2010-11-01

Language: en\_US

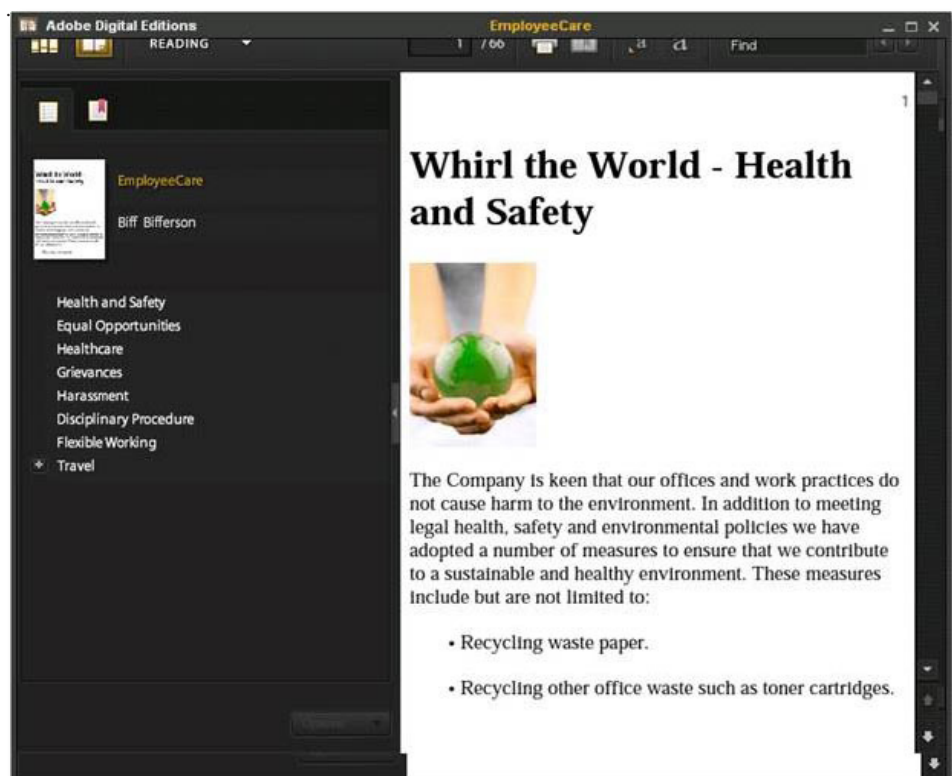
Open ePub in default application

Generate Close

偶然ですが、私の著書はすべて Adobe FrameMaker で書いたものです。ですから、この FrameMaker のコンテンツは簡単に Adobe RoboHelp に移すことができます。実際、前述した Technical Communication Suite があれば、FrameMaker から RoboHelp のワークフローは実にシームレスです。

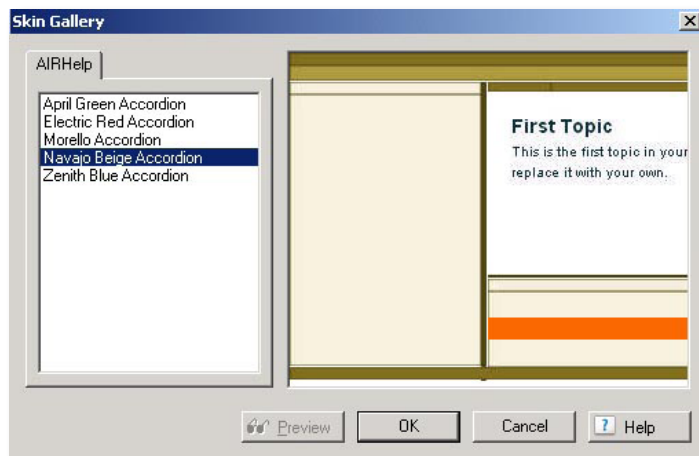
RoboHelp の ePub 機能のおかげで、RoboHelp コンテンツから ePub 形式のコンテンツをスピーディに生成できます。RoboHelp のあらゆる機能のなかでも ePub コンテンツ生成機能は、まさしく文字どおり、デ

ジタルパブリッシングに関するビジネスの方法を変えつつあります。私の会社は社内で ePubs 制作を行うことで、簡単に Technical Communication Suite の元が取れる金額を節約できそうです。



## 改良された Adobe AIR レイアウト

Adobe AIR (Adobe Integrated Runtime) を使用すると、アプリケーションデベロッパーは、Web ブラウザーの外で実行可能なリッチインターネットアプリケーションを作成できるだけでなく、様々なオペレーティングシステム上で完全に同じように作業を行います。eBay、Yahoo、NASDAQ といった企業は Adobe AIR の絶大なパワーを活かして、Internet Explorer や FireFox、Chrome などの Web ブラウザーがなくてもコンテンツがユーザーのデスクトップに直接提供されるようにしています。



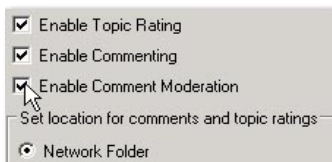
留まるところを知らない Adobe AIR の人気、そしてこのテクノロジーを生み出したのがアドビであるという事実を考えれば、この形式を RoboHelp がフルにサポートしているのも頷けます。AIR Help を最初に利用できるようになったのは RoboHelp 8 ですが、この RoboHelp 最新バージョンでは、AIR Help が一層パワフルに改良されています。

例えば、Adobe AIR レイアウトのプロパティを見ると、テンプレートというカテゴリがあります。このテンプレートの一連のオプションのなかにギャラリーボタンがあり、これをクリックすると 5 パターンのビジュアルを選択できるスキンギャラリーを利用できます。

共同作業というカテゴリは、ヘルプシステムにポストされた公開コメントを管理できる オプションがあるほか、エンドユーザーがトピックの評価を行えます。最後に、これは重要なことですが、RoboHelp サーバーを使用すれば、ユーザーのコメントを保存することができます。

## RoboHelp 9 と Microsoft Word の連携がこれまで以上にスムーズに

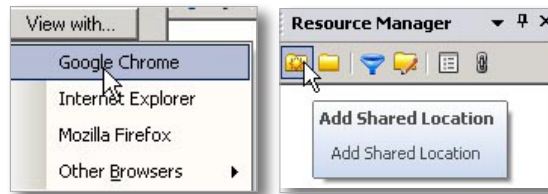
既にお伝えしたように、RoboHelp 9 は Word 2010 を完全にサポートしています。RoboHelp でオーサリングを行っていて、Word ドキュメントの状態になっているコンテンツの大部分を RoboHelp に読み込もうと考えている多くの方々にとって、これは素晴らしいニュースです。



私はまだ Word 2007 を使っていて、すぐに Word 2010 にアップグレードする予定はありません。そんな私にとって嬉しいことに、RoboHelp 9 では印刷用ドキュメントの作成プロセスが改善されています。旧バージョンの RoboHelp では RoboHelp から Word のワークフローで物足りない部分も多々ありましたが、今回は Word でマクロを実行した後（これは私が印刷用ドキュメントを作成する前に必ずしなくてはならない作業です）、このプロセスは完璧に機能しました。

## まだまだある、RoboHelp 9 の新機能

もちろん RoboHelp 9 には他にも新しい機能があります。様々なブラウザで Web 出力をプレビューできます (Chrome にも対応)。



状況依存ヘルプの作成プロセスを自動化したければ、RoboHelp 9 にその機能が搭載されています。また、作成者間のコラボレーション機能が強化されており、リソースマネージャーポッドで RoboHelp プロジェクト全体のアセットを共有できるようになっています。実に素晴らしい!



Kevin Siegel 氏は IconLogic, Inc の設立者であり社長を務めています。これまでに『Essentials of Adobe Captivate 5』、『Adobe Captivate 5: Beyond the Essentials』、『The Essentials of Adobe Captivate 4』、『Adobe Captivate 4: Beyond the Essentials』、『Essentials of Adobe Captivate 3』、『Essentials of Adobe Captivate 2』、『Essentials of Macromedia Captivate』、『Essentials of RoboDemo 5』、『Essentials of RoboDemo 4』、『Essentials of RoboDemo 3』、『Essentials of Adobe RoboHelp 8』、『Essentials of Adobe RoboHelp 7』、『Essentials of Adobe Dreamweaver CS3』、『QuarkXPress 8: The Basics』、『Essentials of Adobe InDesign CS3』、『Camtasia Studio 7: The Essentials and Camtasia Studio 6: The Essentials』など、200 冊以上の著書があります。

同氏は受賞経験もあるフォトジャーナリストとして米国 Coast Guard で 5 年間を過ごし、印刷物出版者、テクニカルライター、ラーニングコンテンツ開発者、e ラーニング開発者としても 20 年以上の経験があります。技術トレーナーの資格を持ち、20 年以上にわたって教壇に立っているほか、見本市や展示会でも頻繁に講演を行っています。過去 3 年間は、オンラインのライブトレーニング分野におけるパイオニアとして、数百におよぶクラスを指導し、数千人の生徒に教えてきました。同氏はアドビや CompTIA といった企業からいくつもの認定を受けています。同氏の連絡先: ksiegel@iconlogic.com

注: Adobe RoboHelp Server は日本では販売しておりません。

### 詳細情報

[www.adobe.com/jp/products/robohelp.html](http://www.adobe.com/jp/products/robohelp.html)



アドビシステムズ 株式会社  
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2  
ゲートシティ大崎 イーストタワー  
[www.adobe.com/jp](http://www.adobe.com/jp)  
Adobe Systems Incorporated  
345 Park Avenue  
San Jose, CA 95110-2704  
USA  
[www.adobe.com](http://www.adobe.com)

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Adobe AIR, AIR, Adobe Captivate, Creative Suite, FrameMaker, Photoshop, Reader, and RoboHelp are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2011 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.